

第四回元素化学セミナー・講演会

◆講師◆ 福岡大学理学部
長洞記嘉 准教授



◆日時◆ 令和4年 8月30日 (火)
16:00 ~ 17:30

◆演題◆ 高周期16族元素を含むカチオン性芳香族化合物の
合成と性質

◆場所◆ ハイブリッド形式
・筑波大学1E203室
・Zoomによるオンライン講演会
(事前に御連絡いただければzoom会議室情報をお伝えします。)

炭素や窒素、酸素原子などを用いた有機化学は広く研究されており、その基本的概念・分子構造論・反応機構は、ほぼ確立したと言っても過言ではありません。しかし、第3周期以降の元素（例えば、15族リン、ヒ素、アンチモン、ビスマス、16族硫黄、セレン、テルルなど）の高周期元素を用いた化学は未だ解明されていないことが沢山あります。長洞先生は、高周期元素の特異な結合様式・電子状態の創出を目的とした研究を精力的に行っています。本講演会では、長洞先生の最近の成果として高周期16族元素を含むカチオン性芳香族化合物の合成と性質を紹介します。特に、硫黄陽イオンを六員環に含むチオピリリウム骨格の新規合成法開発と合成した化合物の特性を講演します。更に、合成したチオピリリウム塩類の分子間相互作用も明らかにしたので報告します。

*この講演会は、「有機化学特論 (FE14131)」(化学類)の一部になります。

◆問合せ先◆ 笹森貴裕 (筑波大学数理物質系化学域・TREMS)
029-853-4412、sasamori@chem.tsukuba.ac.jp